

九州大学海外派遣留学生 最終報告書		※ 交換留学期間終了後 15 日以内に提出してください。	
		※ 提出された情報は、海外留学 HP に掲載します。(色のついた部分は掲載しません)	
留学先大学名	シンガポール国立大学 (国名: シンガポール)		
留学先学部名(またはプログラム名)	交換留学		
留学期間	2016 年 8 月 ~ 2017 年 5 月		
学部/学府・年次	総合理工学府	学部/学府	修士 1 年次~ 2 年次
留学により卒業または修了が遅れる見込みの有無とその期間		有・無○ (期間:)	
遅れる見込みの方はその理由を書いてください (NO.に○印をつける)	1. 4年次に留学したため 2. 単位が不足するため 3. 新卒で就職したいため 4. その他(具体的に記入)		
卒業を遅らせないためにどのような配慮や工夫をしましたか?	・留学先で修士課程の授業を履修し、単位を互換した。 ・4年次から研究に熱心に取り組み、留学前に十分な研究成果を出した		
進路の予定	1○. 就職 (時期: 4月から○ / ()年 ()月から) 2. 大学院進学(大学 学府/研究科) 3. その他(具体的に:)		
前項で1と答えの方は、就活時期と方法を教えてください(予定を含む)	【時期】留学中の 2017 年 3, 4 月 【方法】3 月にエントリーシートの作成及び学校推薦の取得手続きを留学先にて実施。4 月の試験休み期間に一時帰国し面接を受け、内定を頂いた。		
進学先や就職先の選定に、留学経験が影響しましたか?	いいえ		
留学経験は就職活動の際に役立ちましたか?	はい 面接での半分は留学先でのことを話した。		
1. 留学先大学について			
授業(カリキュラム等)の概要について	留学先では専門分野である機械工学系に加え、コンピューターサイエンスの授業を履修。留学先での授業は座学や通常のペーパーテストだけではなく、ディスカッションやグループプロジェクトも多く取り入れられていた。特にグループプロジェクトは、例えば ・キャンパス内での太陽光発電の導入可能性についてまとめよ ・実際のビルのエネルギー使用データから省エネルギー策を提案せよ といった非常に実践的なテーマだった。理系の授業であってもこうした実践の場があることで、学んでいることが実際の社会でどのように生かせるかを意識しながら取り組めるため、非常に良いと思った。また、シンガポール人をはじめとした多国籍のチームでの議論やタスクを進める経験は、今後就職してからも大いに役に立つと思う。このグループプロジェクトを受けるだけでも、留学に行く価値はあると思う。		

<p>留学先大学のサポート体制について (語学面／勉学面／精神面／住居・生活面など)</p>	<p>住居はほぼ間違いなく大学内の寮に入れる。生活面で困ったことがあれば Student Centre に行けば何でも答えてくれる為問題ない。私の場合は、寮に Student Fellow という新入生や留学生をサポートする役割の人が各階に1人いたので、その人に聞くことが多かった。勉学面では、キャンパス中に自習スペースが設けられており、自由に使うことができる。(しかし、シンガポール人は猛烈に勉強するので、席を見つけるのは簡単ではない)</p>
<p>留学先大学に対する感想</p>	<p>Full time の学生はシンガポール人 7 割と中国人 3 割(と東南アジア各国から少数)から成り、交換留学生は欧米諸国をはじめ世界中から学びに来ているため、本当に世界中の人たちと触れ合うことができる大学である。中でも工学系の学科にはドイツやイギリスをはじめとしたヨーロッパからの留学生が多く、特に多様な学生に囲まれた環境だった。</p> <p>また、日本の大学は個人ワークが殆どであるのに対し、シンガポール国立大学ではチームでの作業を重んじているように感じた。前述のグループプロジェクトはもちろんのこと、実験レポートも 3,4 人で 1 つのレポートを作ることが求められ、常にチームを意識させられた。</p> <p>大学院の修士課程に関しては、更に違いが大きかった。日本の大学院は修士博士ともに研究が主体となるが、シンガポールで言う一般的な大学院は Course Work つまり授業主体であった。学生の構成としては、シンガポール人は少なく、殆どはインドや中国、東南アジア諸国からの学生であり、学部よりもグローバルであった。彼らの多くは就業経験があるため、グループプロジェクトではより専門的な意見が飛び交い、最終発表も実際にお客さんに提出できそうなレベルで作ってくる。</p> <p>日本の修士では研究活動を通して考える力、いわば「基礎体力」を付けることを目指しているが、シンガポールの修士は実践的な授業を通し「応用力」を強化している。一口に修士といっても国によって全く違うことを実感した。</p>

<p>同じ大学への留学を希望する人々へのアドバイス</p>	<p>お勧めできる留学先である。旅行で行けば3日で飽きるといわれるシンガポールだが、人種のるつぼと評されるように、中国やインド、アラブ、西洋など多くの文化が共存しているため、多様な食事や、文化を感じられるイベントがあるため思っていたよりも楽しめる。歴史の面でも旧日本軍の占領遺跡が島中に多くあり、中には大学から歩いて行けるものもある。今でこそシンガポールは親日な人ばかりだが、こうした遺跡を見ると日本人としては深く考えさせられる。是非長期の滞在でじっくりとシンガポールの文化や歴史に触れてもらいたい。</p> <p>この大学は、留学先で専門分野を究めたい学生にとって理想的な環境だと思う。私自身、勤勉なシンガポール人と活発な欧米人と机を並べて勉強したことで専門分野への理解と自信を深めることができた。加えて、前述のようにシンガポール国立大学には実践的な授業が揃っているのも、自分の専門が実際どのように社会で役に立つのかを知ることができる。特に理工系の学生にはとっては、日本国内でこのような機会が少ないので強くお勧めしたい。</p> <p>一方で、綺麗な英語を身につけたいと考える学生には向いていないかもしれない。シンガポール人の英語は「シングリッシュ」と言われるように非常になまりが強く、教科書的な英語を身に付けることは難しい。</p>
<p>2. 事前手続き(ビザ申請など)</p>	
<p>ビザの種類</p>	<p>Student Pass</p>
<p>ビザ申請先</p>	<p>Immigration & Checkpoints Authority of Singapore(ICA)</p>
<p>必要書類、手続き方法</p>	<p>健康診断書などの必要書類を留学開始時に揃えていれば、キャンパス内にて受け取ることができる。しかし、その機会を逃すと、街中のICAオフィスに出向かなければならない。一応ネットで行く日時を予約できるが、それでも3,4時間は当たり前のように待たされる。指定項目の健康診断を日本で受験し、キャンパス内で Student Pass を受け取ることを勧めます。</p>
<p>手続きに要した時間</p>	<p>2日</p>
<p>その他必要な事前手続き</p>	

3. 日常生活	
日常生活の概要、感想	<p>授業のある平日は基本的に勉強が中心。休日や時間のある日はジムに行ったり、テニスをしたりと、運動をすることが多かった。スポーツ関連施設も非常に充実(テニスコートは15面!)しているので、体を動かすにも良いキャンパスである。</p> <p>留学してしばらくすると学内での食事に飽きてきたので、街中に点在する Hawker Centre まで足を伸ばし、ご飯を食べることがあった。この Hawker Centre はフードコートのようなもので、500 円以内で多様な料理を食べることができる上に、「シンガポールで一番おいしいものは全部Hawker Centreにある」と言われるほど味の質が高いので、私は頻繁に行っていた。</p>
生活費(月額)及びおおよその内訳(円換算で)	<p>生活費計 54000 円/月</p> <p>(生活費内訳)住居費: 38000 円、光熱水料: 0 円、通学費: 0 円、食費: 15000 円、電話代: 1000 円、インターネット代: 0 円、書籍代: 円 その他:(具体的に)</p> <p>学費・寮費以外に大学へ納入するもの(あれば) 円 (徴収された費用の名目を具体的に:)</p>
日本から持参した方がよいもの(PCや変圧器等の要不要も)	<p>ノート PC(授業スライドのシェアや課題の提出は基本的に Web 上にて行われる) Wifi ルーター(学内でも買えるが高いので) 関数電卓(理系の人は試験で必要)</p>
これから留学する人への、日常生活(治安対策を含め)に関するアドバイス	<p>治安は非常に良い。 物価はものによる。学内や Hawker Centre での食事は日本より安い、レストランでの食事やお酒、シャンプーやボディソープなどは日本の2倍はする感覚である。</p>
お金の管理や受け取り(銀行口座開設や海外送金、またはクレジットカード持参など)について、貴方の留学先国で最も適当な方法を教えてください。	<p>新生銀行の口座を出国前に開設し、そこで管理した。 新生銀行は世界中の ATM で、現地通貨として引き出しができ。手数料も比較的安い。シンガポールだけでなく、マレーシアやタイなどでも対応していたため、東南アジア旅行中も使え非常に便利だった。</p>

4. 住居、生活環境		
住居の種類(○印をつける)	・寮○ ・ホームステイ ・民間アパート ・その他()	
住所／電話番号	25 Lower Kent Ridge Rd, シンガポール 119081 +65 6601 3886	
費用(月額)	約 38000 円(光熱費、インターネット代込み)	
どのようにして見つけたか	大学に手配をしてもらった	
次期留学生に推薦できるかどうか、およびその理由。	推薦できる。Ridge View Residential College という寮だったが、現地学生と交換留学生の両方が混ざっているため、いろいろな人と交流を持ちやすい。立地条件も、キャンパスの中央と非常に良く、駅や Utown など、どんな場所にも行き易い。また、新しく食堂も建設されていたため、来年度からはピカピカの食堂でご飯が食べることになると思う。毎年2月には寮対抗スポーツ大会に参加しているため、寮内にも多くのサークルがあり、スポーツを通して交流を深めることができる。	
留學生活を送る上で次期留学生に伝えたい地域情報、生活情報	生活の中心となる Kent Ridge キャンパスはシンガポールの中心部から 2、30 分の郊外にあり、とても広大な敷地を持っている。無料循環バスがキャンパス中を走っており、これを使った移動が主となる。 学内には食堂やコンビニ、スーパーなどもあり、十分に生活できるが、是非とも学内にも積極的に足を伸ばしてもらいたい。私は学外の日本人テニスサークルに参加し、駐在員や個人投資家の方々と交流する機会を持った。他にもボランティア活動やインターンに参加している交換留学生もいた。	
5. 準備段階や留學中に役に立ったウェブサイト		
サイト名	URL	コメント

6. その他の特記事項